

夏目漱石の小説にみえる「**相対男性語**」の考察

—— 女性が使用する場合を中心に ——

寺 田 智 美

キーワード

男性語 明治末期 会話文 文末表現 夏目漱石

1 はじめに

従来の近・現代日本語における言葉の性差に関する研究では、男性らしい表現としては例えば〈ぜ・ぞ・なあ〉などのようなものが、女性らしい表現としては〈こと・て?・わ〉などのようなものが挙げられてきた⁽¹⁾。しかし、これらが本当に男性、あるいは女性に限って用いられる表現であるのかという点については、いまだ研究が及んでいないというのが現状である。

筆者は夏目漱石の作品を使用し、明治末期の絶対女性語および絶対男性語にはどのようなものがあるのかということについて、調査を行ってきた⁽²⁾。本稿では、それらの分析の際に除外した相対男性語および相対女性語⁽³⁾の分類を行い、相対男性語について考察していく。特に、女性が相対男性語を使用する場合を中心に取り上げ、その特性について考えてみたい。

2 使用したテキストおよび分析対象

使用したテキストは、以下の10種である。

『吾輩は猫である』『草枕』『虞美人草』『三四郎』『それから』『門』

『彼岸過迄』『行人』『道草』『明暗』⁽⁴⁾

これらの作品から会話文（「 」でくくられたもの）を抜き出し、その文末表現29類（＝〈表現A〉とする）と、その下位分類（バリエーション）603種（＝〈表現B〉とする）⁽⁵⁾を分析対象とした。扱った〈表現A〉29類は以下の

とおりである。〈表現A〉の性別ごとの使用度数、および〈表現B〉603種については、拙稿（2000、2001）を参照されたい⁽⁶⁾。

〈表現A〉

あ/い/え/か/かしら/かしらん/こと/さ/ぜ/ぞ/たい（方言）/ちゃ/つけ/て/てば/とも/な/なあ/ね/ねえ/の/のう/ばい（方言）/まい/めえ/もの/や/よ/わ

3 相対男性語・相対女性語の分析方法

相対男性語と相対女性語の分析は、以下のような手順で行った。

3-1 〈表現A〉の「性格（男性語的か女性語的か）」を決定する

まず〈表現A〉の性格を決定するために、〈表現A〉の使用度数⁽⁷⁾をもとに以下のような計算式を用い、各性別が〈表現A〉を用いる割合をそれぞれ求めた。（→【表I 〈表現A〉を使用する割合】、191頁参照。）

【計算式I：ある〈表現A〉を各性別が使用する割合（＝可能性）を算出する】

a 相対男性語の場合

（男性がある〈表現A〉を用いる度数〈男性使用度数A〉÷男性の全度数〈7725〉
×ある〈表現A〉を用いる男性の〈話手人数A〉）÷男性話手の全人数〈133〉

b 相対女性語の場合

（女性がある〈表現A〉を用いる度数〈女性使用度数A〉÷女性の全度数〈3741〉
×ある〈表現A〉を用いる女性の〈話手人数A〉）÷女性話手の全人数〈70〉

【計算式II：各〈表現A〉の性格（＝男性語的か女性語的か）を算出する】

a 男性が女性の何倍使用しているかを計算する場合

ある〈表現A〉を男性が使用する割合÷ある〈表現A〉を女性が使用する割合

b 女性が男性の何倍使用しているかを計算する場合

ある〈表現A〉を女性が使用する割合÷ある〈表現A〉を男性が使用する割合

【計算式II a】の数値が大きいほど男性語的性格が強く、【計算式II b】の数値が大きいほど女性語的性格が強いということになる。また数値が1に近づ

くほど、中性的な表現であるといえることができる。

3-2 各〈表現A〉を使用する「割合（可能性）」と「性格」との関連をみる

次に、性別ごとに各〈表現A〉を使用する割合（＝使用する可能性。【表I】⑥と⑩）の順に並べかえ、その性格と割合の関連をみしてみる（→【表II〈表現A〉の使用順位（割合順）】、192頁参照）。たとえば、男性の場合は男性語的性格の強い表現が、女性の場合は女性語的性格の強い表現が上に位置することが望ましいといえる。

3-3 〈表現B〉の性格を決定する

拙稿（2000）の【表II〈表現B〉の使用度数】から抽出基準⁽⁸⁾を満たす〈表現B〉を抜き出し、3-1と同じ手順で性格と割合を算出して男性語的性格の強い表現（＝相対男性語）と女性語的性格の強い表現（＝相対女性語）、およびその中間的な性格を持つ表現の特徴をみる。（→【表III a～l〈表現B〉を使用する割合】、193頁参照）

4 相対男性語および相対女性語の分析結果

4-1 〈表現A〉の性格

【表I〈表現A〉を使用する割合】は、3-1の手順で算出した数値を「割合の比較」、すなわち⑪と⑫の数値順に並べかえたものである。上に位置する〈表現A〉ほど男性語的性格が強く、下に位置する〈表現A〉ほど女性語的性格が強いと解釈する。

すでに絶対男性語として抽出された〈表現A-ぞ〉、絶対女性語として抽出された〈表現A-こと・わ〉⁽⁹⁾、および抽出基準に満たないものを除いたすべての〈表現A〉は、表中二重傍線部を境に上方が相対男性語、下方が相対女性語と分類された。

つまり、相対男性語としては、男性語的性格の強い順に

■相対男性語

〈表現A-ぜ〉なあ〉や〉かしらん〉あ〉な〉っけ〉さ〉い〉まい〉か〉ね〉の12類、相対女性語としては、女性語的性格の強い順に

■相対女性語

〈表現A-て〉の〈ねえ〉もの〉とも〉ちゃ〉よ〉かしら〉の8類が挙げられるという結果を得た。

相対男性語と相対女性語の境界線付近にある〈表現A〉、特に〈表現A-ね〉は、割合の比較の数値(3-1の【計算式Ⅱ a b】)の数値。【表Ⅰ】⑪と⑫)が最も1に近く、これらの表現の中では中性的な性格を持つとすることができる。

4-2 各〈表現A〉を使用する割合と性格の関連

次に、【表Ⅱ〈表現A〉の使用順位(割合順)]を検討してみる。この表は、【表Ⅰ】を「男性が使用する割合」、および「女性が使用する割合」の降順で並べ替えたものであり、【表Ⅰ】において相対男性語に分類された表現については網をかけて示した。単純に考えれば、男性は表の上方に網掛け部分が、女性は表の下方に網掛け部分が集中することが望ましい。

たとえば、女性が明らかによく使用し、男性がほとんど用いない表現があるとする。おそらくそのような表現は、「この表現を女性が使用する割合」の数値が高くなると考えられる。一方、男性はほとんど用いないため、「この表現を男性が使用する割合」の数値は低くなる。「割合の比較Ⅱ」の数値は、「この表現を女性が使用する割合」を「この表現を男性が使用する割合」で割ったものであるから、当然、「割合の比較Ⅱ」の数値も高くなることが予想できる。極端に言えば、【表Ⅰ】では相対男性語が12類、相対女性語が8類選択されているので、男性の場合は上方12類が網掛け部分、女性の場合は上方8類が網掛け部分になるはずなのである(表中太線部が「理想的な」境界線の位置を示す)。

ところが【表Ⅱ】をみると、全体の傾向としては男性は上方に、女性は下方に網掛け部分が偏って、ほぼ理想に近い形になっているものの、「理想的な」境界線をはさんで、男性の場合は〈よ・もの・かしらん・つけ〉、女性の場合は〈ね・か・い・さ・ねえ・ちゃ・かしら・とも〉のような、逆転した場所に配置されている表現がみられる。

このような位置の逆転は、どう解釈するべきだろうか。

表の上方に逆転が起こっている場合と、下方に逆転が起こっている場合は分

けて考えなければならない。

表の上方に逆転が起こっている場合、たとえば男性の例でいえば、これは「どちらかといえば男性がよく用いる表現であるが、女性も（場合によっては）よく用いる表現」ということができ、逆に表の下方に逆転が起こっている場合は、「どちらかといえば男性が用いるが、男性も女性もそんなに頻繁には用いない表現、あるいは用例が不足していて確定できない表現」ということができると思う。

絶対男性語として抽出されたはずの〈表現A—ぞ〉が境界線よりも下方に配置されていることは、〈ぞ〉が男性しか用いない表現ではあっても、あまり頻繁に用いられる表現ではない（あるいは、用例が不足していて確定できない表現である）ことを意味する。一方、絶対女性語として抽出された〈表現A—こと・わ〉は境界線よりも上方に位置している。このことは、筆者が拙稿（2001）で述べた、女性語における女性らしさは特定の文末表現に強く依存し、男性語における男性らしさは特定の文末表現には依存しない傾向がある⁽¹⁰⁾という点を裏付けているといえよう。

4-3 〈表現B〉の性格 ⇒【表Ⅲ—a～1】参照

次に、相対男性語として分類された各〈表現A〉のバリエーション〈表現B〉の使用状況を【表Ⅲ〈表現B〉を使用する割合—a～1】にまとめ、女性が相対男性語を使用する場合を中心に考察していく。

なお、この表では絶対男性語・絶対女性語も網をかけて示してある。上から絶対男性語、相対男性語、相対女性語、絶対女性語の順で並べられていると理解されたい。

4-3-1 〈表現A—ぜ〉 ⇒【表Ⅲ—a】参照

〈表現A—ぜ〉の全用例186例中、下に示す女性の使用例がたった1例あったために、絶対男性語に分類されなかった表現である。男性話者38名が185例使用しているという数字は、この表現が極めて絶対男性語に近いものであることを示している。

○「そんならもう帰して貰いますぜ」[行人35：下女→長野二郎]

以下、同様に用例を示していくが、各用例の冒頭にある「◇」は男性の発話、「○」は女性の発話を表していることを、ここで明記しておく。

4-3-2 〈表現A—なあ〉 ⇒【表Ⅲ—b】参照

〈表現A—なあ〉も4-3-1と同様、下に示す女性の使用例がたった1例あったために、絶対男性語に分類されなかった表現である。〈ぜ〉よりは男性話者の人数も用例数も少ないものの、やはり絶対男性語に極めて近い表現であるとしてよいだろう。

○「困るなあ」 [草枕51：婆→源兵衛]

4-3-3 〈表現A—や〉 ⇒【表Ⅲ—c】参照

命令および軽く言い放つ用法の〈や〉は、すでに絶対男性語として分類したが、〈表現A—や〉自体が絶対男性語として分類されなかったのは、下に示す女性の用例2例があったためである。女性の用例は、いずれも呼びかけの〈や〉であった。命令および軽く言い放つ用法の〈や〉は、絶対男性語に分類してよいと思われる。

○「富子や、富子や」 [猫112：金田鼻子→金田富子]

○「清や、清や」 [猫464：苦沙弥妻→お三]

4-3-4 〈表現A—かしらん〉 ⇒【表Ⅲ—d】参照

〈表現A—かしらん〉全11例のうち、女性の用例は以下に示す1例だけであった。〈表現A—かしら〉が相対女性語に分類されていることから、女性は〈かしらん〉よりも〈かしら〉の方を使用する傾向があるということになる。これも限りなく絶対男性語に近い表現であるといつてよい。

◇「何哩位の速力か知らん」 [虞美人草102：宗近一→甲野欽吾]

○「あんな声を出して何の呪いになるか知らん。」 [猫55：二絃琴の師匠→下女]

4-3-5 〈表現A—あ〉 ⇒【表Ⅲ—e】参照

〈表現A—あ〉は全91例中、女性の使用例はわずか5例であった。女性の使用例としては〈ちゃあ・でさあ〉が見られた。特に敬語表現の有無で性差が表れているわけではないようだが、女性で〈表現A—あ〉を使用するのは年輩の

女性が多いように見受けられる。他に女性の使用例として〈あ〉が2例、〈お+なっちゃあ〉が1例見られた。

- 「聞えないだろうねこう立て切って有っちゃあ。」
[虞美人草277：甲野母→甲野欽吾]
- 「そりゃ嘘をつくのも宜う御座んしょうさ、ね、義理が悪るいとか、ばつを合せなくっちゃあならないとか——そんな時には誰しも心にない事を云うもんでさあ。」
[猫125：金田鼻子→鈴木藤十郎]
- 「今になってあの人と御交際いになっちゃあ」 [道草38：御住→健三]
- 「ちよいと西川さん、おい西川さんてば、用があるんだよこの人あ。」
[猫40：車屋のおかみ→西川]

4-3-6 〈表現A—な〉 ⇒【表Ⅲ—f】参照

〈表現A—な〉710例中、女性の用例はわずか36例であった。うち、以下のような命令の用法は28例にも及ぶ。

- 「御前は行きたければ御出な」 [明暗12：津田延子→津田由雄]
- 「二郎さん、貴方も手を出して御あたりなさいな」
[行人275：長野直→長野二郎]

〈な〉を伴う命令の用法は、【表Ⅲ—f】を見てもわかるとおり、相対女性語として分類される。このことから、原則として〈な〉は男性が使用するが、命令の用法に限っては、主に女性が使用するということができよう。

なお、〈表現B—な〉の女性の用例として3例あるが、いずれも子どもの用例であった。

- 「早くお父さまが来てくれると好いんだけどな」
[明暗140：岡本百合子→岡本継]
- 「牡丹餅が食べたいな」 [猫364：苦沙弥子供 すん子→雪江]
- 「わたしも御嫁に行きたいな」 [猫372：苦沙弥子供 とん子→雪江]

4-3-7 〈表現A—つけ〉 ⇒【表Ⅲ—g】参照

〈表現A—つけ〉が絶対男性語に分類されなかったのは、下に示す女性の〈表現B—ましたつけ⁴¹⁾〉の使用例が1例があったためである。これも〈ぜ・なあ・かしらん〉などと同様、限りなく絶対男性語に近い表現であるといえるが、何かしら敬語表現がつくことにより、女性も使用する可能性はある。同時代の用例をさらに集めてからさらに検討を加えたい。

- 「この間引越の時に、気が付いて、こりゃ宗さんのだから、今度序があつたら届けて上げたら可いだろうって、安がそう云っていましたっけ」

[門47：佐伯叔母→野中宗助]

4-3-8 〈表現A—さ〉 ⇒【表Ⅲ—h】参照

〈表現A—さ〉全708例中、女性の用例は57例であるが、抽出基準を満たすものだけを見ても、形の上での明確な傾向はみられない。ところが基準を満たさないものをみると、女性だけが使用する表現としてくてえばさ・でしょうさ・ですからさ・ですとさ・ますさ〉が挙げられ、敬語表現の有無による性差の可能性が浮かび上がってくる。上記〈っけ〉と同様、同時代の用例をさらに集めてからさらに検討を加えたい。

- 「なに矢ッ張り相変らずさ。」 [道草16：比田夏→健三]
- 「いえ、頭や顔は別として、様子がさ」 [門40：佐伯叔母→佐伯叔父]
- 「まあ旨く行きそうなのさ」 [明暗71：藤井朝→津田由雄]
- 「だからさ。叔父さんの方では、御金の代りに家と地面を貰った積でいらっしゃるかも知れなくってよ」 [門36：野中御米→野中宗助]
- ◇「甲野さん、糸公が君の為に休んでやるとさ」
[虞美人草176：宗近一→甲野欽吾]
- 「それからね、いくら毎日々々騒いでも験が見えないので、大分みんなが厭になって来たんですが、車夫やゴロツキは幾日でも日当になる事だから喜んで騒いでいましたとさ」
[猫367：雪江→苦沙弥妻]
- 「——金田だってえばさ。」 [猫111：金田富子→電話（芝居小屋長吉）]
- 「尤も叔父さんさえ生きていれば、又どうともなるんでしようさ。」
[門45：佐伯伯母→野中宗助]
- 「色々な妙な事がかいてあるんですとさ。」 [猫371：雪江→苦沙弥妻]
- 「矢ッ張同じですからさ。」 [虞美人草274：甲野藤尾→甲野母]
- 「やだわ、虫が食うなんて、そりゃ鬻で釣る所は女だから少しは禿げますさ」
[猫173：苦沙弥妻→多々良三平]

4-3-9 〈表現A—い〉 ⇒【表Ⅲ—i】参照

抽出基準を満たす女性の使用例はない。しかし、抽出基準を満たさないものの中に〈お十かい・お十のかい・でしたかい・ますかい〉が見られることから、敬語表現の有無に性差が表れる可能性はありそうである。

- 「御医者様へ連れて行ったのかい」 [猫53：二絃琴の師匠→下女]
- 「御前誰が一番好きだい。」 [道草107：島田常→健三]

- 「そんなに面白い御本なのかい。」 [虞美人草37：甲野母→甲野藤尾]
- 「右の方かい、左の方かい」 [道草112：島田常→健三]
- 「汁粉屋で御前を何方へ坐らせたい。」 [道草112：島田常→健三]
- 「云えば御廢しかい」 [虞美人草269：甲野母→甲野藤尾]
- 「小野さんに上げると御云いのかい」 [虞美人草271：甲野母→甲野藤尾]
- 「恒さん、先刻市蔵が此方へ上った時、何か様子の変った所でも有りゃしませんでしたかい」 [彼岸過迄296：須永母→松本恒三]
- 「近頃は陽氣の所為か池の緋鯉が、まことに能く跳るんで……此所から聞えますかい」 [虞美人草277：甲野母→甲野欽吾]

4-3-10 〈表現A—まい〉 ⇒【表Ⅲ—j】参照

抽出基準を満たすものは〈まい〉と〈ますまい〉しかないが、基準を満たさない女性の使用例には、〈ございますまい・じゃあるまい・謙讓+ますまい〉が各1例ずつみられる。敬語の有無によって性差が表れる表現であるといえる。

- 「然し猫でも坊さんの御経を読んでもらったり、戒名をこしらえてもらったのだから心残りはあるまい」 [猫73：二絃琴の師匠→下女]
- ◇「あなた、だって嫌な方じゃありますまい。」 [草枕114：余→志保田那美]
- 「ホホホホじゃ聴きますまい」 [草枕111：志保田那美→余]
- 「——落々話の出来るのは恐らく一週間に一日も御座いますまい。」 [彼岸過迄65：須永母→田川敬太郎]
- 「だって、世間はそうしたもんじゃあるまい。」 [虞美人草272：甲野母→甲野藤尾]
- 「私なんぞの要らない差出口は御迷惑でしょうから、もう何にも申しますまい。」 [それから221：長井梅子→長井代助]

4-3-11 〈表現A—か〉 ⇒【表Ⅲ—k】参照

たとえば、〈ものか〉およびすでに絶対男性語として挙げた〈もんか〉と〈ものですか・もんですか〉の対応だけ取り上げれば、敬語表現の有無によって性差が表れているといえそうである。しかし相対男性語にも、そして絶対男性語の中にも〈です・ます〉を伴った表現があることから、単純に敬語表現の有無だけで性別を判別することはできない。

〈か〉については、意味用法による分析を行ってみる必要があるだろう。

- ◇「ラッヴをした事がないものに女が分るものか」

- [三四郎136：佐々木与次郎→小川三四郎]
- 「隠れて見合なんかするものか」 [行人332：長野の母→長野重]
- ◇「そんな事があるものですか。」 [明暗400：津田由雄→吉川夫人]
- 「そんな帯があるものですか。」 [猫168：苦沙弥妻→苦沙弥先生]
- ◇「又そんな危険がある位なら、なんで平岡君に僕から話すもんですか」
[それから263：長井代助→平岡三千代]

4-3-12 〈表現A—ね〉 ⇒【表Ⅲ—1】参照

相対男性語となるものが非常に多く、また今までに多く見られたような敬語の有無による性差の区別もしがたいのは上記〈か〉と同様である。では何も性差のマーカになるものはないかといえ、必ずしもそうではない。たとえば、絶対女性語の中に〈だわね・わね〉があるが、これは絶対女性語である〈わ〉の存在によるものと考えられよう。したがって、〈ね〉をめぐる性差は〈ね〉そのものではなく、〈ね〉の前に置かれている語によって左右されている可能性が高いといえる。その一方で、〈ね〉が接続することによって、本来絶対男性語だった表現が女性にも使用されるようになるものもある。以下、絶対男性語に〈ね〉がついたもののみを用例として挙げる。いずれも〈ね〉によって、女性の使用例が増えた例である。

- ◇「だが、姉さん、僕はどうしても嫁を貰わなければならないのかね」
[それから105：長井代助→長井梅子]
- 「全体貰う気があるのかね」 [虞美人草116：甲野母→甲野藤尾]
- ◇「大人しくさえしていりゃどんな発展でも出来ようってもんだから、肝心な所で山気だの謀叛気だのって低気圧を起しちゃ親不孝に当らあね。」
[彼岸過迄22：森本→田川敬太郎]
- 「いくら哲学だって自分一人位どうにかなるに極っていらあね。」
[虞美人草115：甲野母→甲野藤尾]
- ◇「御米、近来の近の字はどう書いたつけね」 [門6：野中宗助→野中御米]
- 「——今でも御婆さんでしたつけね。」 [虞美人草27：甲野藤尾→小野清三]
- ◇「これから生れるかも知れないやね」 [門130：野中宗助→野中御米]
- 「あれを御覧な、あれじゃまるであかの他人が同なじ方角へ歩いて行くのと違わないやね。」 [行人107：長野の母→長野二郎]

また、〈ね〉の影響で中性的な性格を持つようになったり、相対女性語になったりするようなものもいくつか見られた。

- ◇「知るものかね、君。」 [彼岸過迄160：松本恒三→田川敬太郎]

○「御前の様な露骨のがらがらした者が、何で市さんの気に入るものかね」

[彼岸過迄201：田口妻→田口千代子]

◇「悪いなんて——僕がするより名誉でさあね。」 [行人264：岡田→長野一郎]

○「自分より世間の義理の方が大事でさあね」 [虞美人草372：甲野母→宗近糸]

承接と性差の関連については、別に考察したい。

5 おわりに

以上、相対男性語について、女性が使用する場合を中心に考察してきた。全体の傾向としては、次のようなことがいえそうである。

- ① 敬語表現の有無によって性差を表す表現が多い。
- ② 敬語表現の有無ではなく、意味用法の違いによって性差が表れる表現がある。
- ③ 文末表現の直前に置かれる語によって、性差が決まる表現がある。
- ④ 絶対男性語であっても、その文末表現が接続することで、女性の使用例が見られるようになる表現がある。

①は多くの文末表現に共通する傾向で、従来いわれてきている「女性は男性よりも丁寧な表現を用いる」ことを裏付けたことになる。しかし、漱石の作品に登場する人物は知識階級が多く、この傾向が一般的であるかどうかについては、他の文献による調査結果の分析を待たねばならない。

②については、たとえば〈や〉や〈な〉のような表現が該当する。本稿および拙稿(2000、2001)では、あくまで形による分類をしたため、各文末表現の細かな意味用法による分析まではまだ調査が及んでいない。これから解決すべき課題の一つである。

③、④は、たとえば〈ね〉のような表現が該当する。これも細かな意味用法の検討が必要であろう。

今後は引き続き相対女性語の分析を行いつつ、上記の問題点を解決するための方法を模索していきたい。

注

(1) 石川(1972)、小松(1976)、鈴木(1988)、中野(1991)、山本(1971)など。

- (2) 拙稿 (2000、2001) 参照。
- (3) 本堂 (1970) および拙稿 (2001) 213頁、注(2)参照。
- (4) 底本の詳細については、拙稿 (2000) 169頁、拙稿 (2001) 202頁参照。
- (5) 拙稿 (2001) では表現Aを「種」、表現Bを「類」と数えたが、本稿では拙稿 (2000) に合わせ、表現Aを「類」、表現Bを「種」とした。
- (6) 〈表現A〉については拙稿 (2001) 217頁【表I 〈表現A〉の使用度数】参照。〈表現B〉については拙稿 (2000) 184-186頁【表II 〈表現B〉の使用度数】、および拙稿 (2001) 214頁注(9)参照。
- (7) 拙稿 (2001) 217頁【表I 〈表現A〉の使用度数】参照。
- (8) 拙稿 (2000) 172頁。話し手5人以上、総用例数5以上。
- (9) 拙稿 (2000) 174頁、同 (2001) 206頁参照。
- (10) 拙稿 (2001) 212頁参照。
- (11) 拙稿 (2000) 184頁【表II】では〈表現B—ますつけ〉としたが、〈ましたつけ〉に訂正する。

【参考文献】

- 石川禎紀 (1972) 「近代女性語の語尾—「てよ・だわ・のよ」」『解釈』18-10
- 小松寿雄 (1988) 「東京語における男女差の形成—終助詞を中心として」『国語と国文学』65-11
- 鈴木英夫 (1976) 「現代日本語における終助詞のはたらきとその相互承接について」『国語と国文学』53--11
- 寺田智美 (2000) 「明治末期の女性語について—夏目漱石の小説にみえる「絶対女性語」の考察」『紀要』13 (早大日本語研究教育センター)
- (2001) 「明治末期の男性語について—夏目漱石の小説にみえる「絶対男性語」の考察」『紀要』14 (早大日本語研究教育センター)
- 中野伸彦 (1991) 「江戸語における終助詞の男女差—女性による「な」の使用について」『国語と国文学』68-4
- 本堂 寛 (1970) 「文頭表現・文末表現に示される女性語意識—主として北奥方言について」『国語学研究』10
- 山本正秀 (1971) 「近代小説の女性語」『解釈』17-12

付記：本稿は2001年度早稲田大学特定課題研究「近代日本語における言葉の男女差の研究」(2001A-177)による成果の一部である。

【表 I 〈表現 A〉を使用する割合】

表現 A	①	②	③ ④ ⑤				⑥ ⑦ ⑧ ⑨				⑩	⑪	⑫
	話手総人数	総度数	話手人数 A	使用度数 A	1人あたりの使用度数	この表現を男性が使用する割合	話手人数 A	使用度数 A	1人あたりの使用度数	この表現を女性が使用する割合	割合の比較 I 女性の何倍使用しているか	割合の比較 II 男性の何倍使用しているか	
♂♂	7	16	7	16	2.29	0.000109	0	0	—	0.000000	—	0.0000	
×	たい	1	1	1	11.00	0.000011	0	0	—	0.000000	—	0.0000	
×	はい	1	1	1	11.00	0.000011	0	0	—	0.000000	—	0.0000	
×	めえ	3	6	3	6	2.00	0.000018	0	0	—	0.000000	0.0000	
	ぜ	39	186	38	185	4.87	0.006842	1	1	1.00	0.000004	1791.8058	0.0006
	なあ	26	51	25	50	2.00	0.001217	1	1	1.00	0.000004	318.5999	0.0031
	や	18	34	16	32	2.00	0.000498	2	2	1.00	0.000015	32.6246	0.0307
	かしらん	9	11	8	10	1.25	0.000078	1	1	1.00	0.000004	20.3904	0.0490
	あ	27	91	22	86	3.91	0.001841	5	5	1.00	0.000095	19.2893	0.0518
	な	87	710	68	674	9.91	0.044609	19	36	1.89	0.002612	17.0784	0.0586
	つけ	8	9	7	8	1.14	0.000055	1	1	1.00	0.000004	14.2733	0.0701
	さ	69	708	55	651	11.84	0.034849	14	57	4.07	0.003047	11.4361	0.0874
	い	58	678	46	603	13.11	0.026998	12	75	6.25	0.003437	7.8554	0.1273
	まい	35	60	27	51	1.89	0.001340	8	9	1.13	0.000275	4.8746	0.2051
×	のう	3	9	2	7	3.50	0.000014	1	2	2.00	0.000008	1.7842	0.5605
	か	141	2503	93	1952	20.99	0.176690	48	551	11.48	0.100997	1.7495	0.5716
	ね	140	2727	89	1984	22.29	0.171863	51	743	14.57	0.144702	1.1877	0.8420
	かしら	24	38	14	22	1.57	0.000300	10	16	1.60	0.000611	0.4906	2.0381
	よ	133	2196	80	1224	15.30	0.095306	53	972	18.34	0.196724	0.4845	2.0641
	ちゃ	31	47	20	24	1.20	0.000467	11	23	2.09	0.000966	0.4836	2.0680
	とも	18	24	8	11	1.38	0.000086	10	13	1.30	0.000496	0.1725	5.7960
	もの	51	203	22	60	2.73	0.001285	29	143	4.93	0.015836	0.0811	12.3261
	ねえ	19	39	7	9	1.29	0.000061	12	30	2.50	0.001375	0.0446	22.4195
×	え	3	4	1	1	1.00	0.000001	2	3	1.50	0.000023	0.0425	23.5405
	の	48	464	12	35	2.92	0.000409	36	429	11.92	0.058976	0.0069	144.2696
	て	27	148	2	2	1.00	0.000004	25	146	5.84	0.013938	0.0003	3580.1173
♀♀	ごと	21	47	0	0	—	0.000000	21	47	2.24	0.003769	0.0000	—
×	てば	1	1	0	0	—	0.000000	1	1	1.00	0.000004	0.0000	—
♀♀	わ	30	434	0	0	—	0.000000	30	434	14.47	0.049719	0.0000	—
合計 (異なり)	(203)	11466	(133)	7725				(70)	3741				

↑ 相対男性語
↓ 相対女性語

・ × (斜線) は基準 (話し手 5 人以上、総度数 5 以上) を満たさないため、分析の対象としては除外すべきもの。
・ 太字 ♂♂ は絶対男性語、♀♀ は絶対女性語としてすでに抽出済みのもの。

- 【項目の説明】
- ① 話し手総人数 = ③ + ⑦
 - ② 総度数 = ④ + ⑧
 - ③ 男性の話し手人数
 - ④ 男性の使用度数
 - ⑤ 男性 1 人あたりの使用度数 = ④ ÷ ③
 - ⑥ この表現を男性が使用する割合 = (④ / 7725 × ③) / 133 → 【計算式 I a】
 - ⑦ 女性の話し手人数
 - ⑧ 女性の使用度数
 - ⑨ 女性 1 人あたりの使用度数 = ⑧ ÷ ⑦
 - ⑩ この表現を女性が使用する割合 = (⑧ / 3741 × ⑦) / 70 → 【計算式 I b】
 - ⑪ 割合の比較 I < 男性は女性の何倍使用しているか > = ⑥ ÷ ⑩ → 【計算式 II a】
 - ⑫ 割合の比較 II < 女性は男性の何倍使用しているか > = ⑩ ÷ ⑥ → 【計算式 II b】

【表Ⅱ 〈表現A〉の使用順位（割合順）】

男 性					女 性				
使用度数 A	話手人数 A	この表現を男性が 使用する割合	表現A	割合の比較Ⅰ 女性の何倍 使用しているか	割合の比較Ⅱ 男性の何倍 使用しているか	表現A	この表現を女性が 使用する割合	話手人数 A	使用度数 A
♂ 1952	93	0.176690	か	1.7495	2.0641	よ	0.196724	53	972 ♀
♂ 1984	89	0.171863	ね	1.1877	0.8420	ね	0.144702	51	743 ♂
♀ 1224	80	0.095306	よ	0.4845	0.5716	か	0.100997	48	551 ♂
♂ 674	68	0.044609	な	17.0784	144.2696	の	0.058976	36	429 ♀
♂ 651	55	0.034849	さ	11.4361	—	わ	0.049719	30	434 ♀♀
♂ 603	46	0.026998	い	7.8554	12.3261	もの	0.015836	29	143 ♀
♂ 185	38	0.006842	ぜ	1791.8058	3580.1173	て	0.013938	25	146 ♀
♂ 86	22	0.001841	あ	19.2893	—	こと	0.003769	21	47 ♀♀
♂ 51	27	0.001340	まい	4.8746	0.1273	い	0.003437	12	75 ♂
♀ 60	22	0.001285	もの	0.0811	0.0874	さ	0.003047	14	57 ♂
♂ 50	25	0.001217	なあ	318.5999	0.0586	な	0.002612	19	36 ♂
♂ 32	16	0.000498	や	32.6246	22.4195	ねえ	0.001375	12	30 ♀
♀ 24	20	0.000467	ちゃ	0.4836	2.0680	ちゃ	0.000966	11	23 ♀
♀ 35	12	0.000409	の	0.0069	2.0381	かしら	0.000611	10	16 ♀
♀ 22	14	0.000300	かしら	0.4906	5.7960	とも	0.000496	10	13 ♀
♂♂ 16	7	0.000109	ぞ	—	0.2051	まい	0.000275	8	9 ♂
♀ 11	8	0.000086	とも	0.1725	0.0518	あ	0.000095	5	5 ♂
♂ 10	8	0.000078	かしらん	20.3904	0.0307	や	0.000015	2	2 ♂
♀ 9	7	0.000061	ねえ	0.0446	0.0006	ぜ	0.000004	1	1 ♂
♂ 8	7	0.000055	っけ	14.2733	0.0031	なあ	0.000004	1	1 ♂
♀ 2	2	0.000004	て	0.0003	0.0490	かしらん	0.000004	1	1 ♂
♀♀ 0	0	0.000000	こと	0.0000	0.0701	っけ	0.000004	1	1 ♂
♀♀ 0	0	0.000000	わ	0.0000	0.0000	ぞ	0.000000	0	0 ♂♂
7725	(133)							(70)	3741

- 太字♂♂は絶対男性語、♀♀は絶対女性語
- ♂は【表Ⅰ】において相対男性語と分類されたもの（網掛け部分）
- ♀は【表Ⅰ】において相対女性語と分類されたもの（白い部分）
- 太線部は相対男性語と相対女性語の「理想的な」境界線の位置を示す。それぞれ絶対男性語・女性語を除いた上から12列目・8列目に引いた。

【表Ⅲ—a 〈表現B〉を使用する割合—〈ぜ〉】

表現A	表現B	① ② ③ ④ 男性				⑤ ⑥ ⑦ ⑧ 女性				⑨ 割合の比較I 女性の何倍 使用しているか	⑩ 割合の比較II 男性の何倍 使用しているか	
		話手人数 B	使用度数 B	1人あたりの 使用度数	この表現を男性が 使用する割合	話手人数 B	使用度数 B	1人あたりの 使用度数	この表現を女性が 使用する割合			
		ぜ	21	84	4.00	0.001717	0	0	—			0.000000
ぜ	だぜ	15	62	4.13	0.000905	0	0	—	0.000000	—	0.0000	♂♂
ぜ	ですぜ	12	20	1.67	0.000234	0	0	—	0.000000	—	0.0000	♂♂
	ますぜ	4	5	1.25	0.000019	1	1	1.00	0.000004	5.0976	0.1962	♂

【表Ⅲ—b 〈表現B〉を使用する割合—〈なあ〉】

表現A	表現B	① ② ③ ④ 男性				⑤ ⑥ ⑦ ⑧ 女性				⑨ 割合の比較I 女性の何倍 使用しているか	⑩ 割合の比較II 男性の何倍 使用しているか	
		話手人数 B	使用度数 B	1人あたりの 使用度数	この表現を男性が 使用する割合	話手人数 B	使用度数 B	1人あたりの 使用度数	この表現を女性が 使用する割合			
		なあ	だなあ	12	20	1.67	0.000234	0	0			—
なあ	なあ	13	14	1.08	0.000177	1	1	1.00	0.000004	46.3881	0.0216	♂

【表Ⅲ—c 〈表現B〉を使用する割合—〈や〉】

表現A	表現B	① ② ③ ④ 男性				⑤ ⑥ ⑦ ⑧ 女性				⑨ 割合の比較I 女性の何倍 使用しているか	⑩ 割合の比較II 男性の何倍 使用しているか	
		話手人数 B	使用度数 B	1人あたりの 使用度数	この表現を男性が 使用する割合	話手人数 B	使用度数 B	1人あたりの 使用度数	この表現を女性が 使用する割合			
		や	や	14	27	1.93	0.000368	0	0			—

【表Ⅲ—d 〈表現B〉を使用する割合—〈かしらん〉】

表現A	表現B	① ② ③ ④ 男性				⑤ ⑥ ⑦ ⑧ 女性				⑨ 割合の比較I 女性の何倍 使用しているか	⑩ 割合の比較II 男性の何倍 使用しているか	
		話手人数 B	使用度数 B	1人あたりの 使用度数	この表現を男性が 使用する割合	話手人数 B	使用度数 B	1人あたりの 使用度数	この表現を女性が 使用する割合			
		かしらん	かしらん	6	8	1.33	0.000047	1	1			1.00

- ・設定基準を満たしたもののみ表示。
- ・網掛けは絶対男性語または絶対女性語。
- ・〈な〉の網掛け部のみ、割合(④)の降順に並べてある。
- ・二重傍線部は男性語と女性語の境界線を示す。

【計算式】

$$\begin{aligned} ③ &= ② \div ① \\ ④ &= (② \div 7725 \times ①) / 133 \\ ⑦ &= ⑥ \div ⑤ \\ ⑧ &= (⑥ / 3741 \times ⑤) / 70 \\ ⑨ &= ④ \div ⑧ \\ ⑩ &= ⑧ \div ④ \end{aligned}$$

【表Ⅲ—e 〈表現B〉を使用する割合—〈あ〉】

表現 A	表現 B	① ② ③ ④ 男性				⑤ ⑥ ⑦ ⑧ 女性				⑨ 割合の比較I 女性の何倍 使用しているか	⑩ 割合の比較II 男性の何倍 使用しているか	
		話手人数 B	使用度数 B	1人あたりの 使用度数	この表現を男性が 使用する割合	話手人数 B	使用度数 B	1人あたりの 使用度数	この表現を女性が 使用する割合			
		あ	まさあ	5	11	2.20	0.000054	0	0			—
らあ	8		16	2.00	0.000125	0	0	—	0.000000	—	0.0000	♂♂
ちゃあ	6		6	1.00	0.000035	1	1	1.00	0.000004	9.1757	0.1090	♂
でさあ	13		48	3.69	0.000607	1	1	1.00	0.000004	159.0451	0.0063	♂

【表Ⅲ—f 〈表現B〉を使用する割合—〈な〉】

表現 A	表現 B	① ② ③ ④ 男性				⑤ ⑥ ⑦ ⑧ 女性				⑨ 割合の比較I 女性の何倍 使用しているか	⑩ 割合の比較II 男性の何倍 使用しているか	
		話手人数 B	使用度数 B	1人あたりの 使用度数	この表現を男性が 使用する割合	話手人数 B	使用度数 B	1人あたりの 使用度数	この表現を女性が 使用する割合			
		な	だな	22	105	4.77	0.002248	0	0			—
かな	24		88	3.67	0.002056	0	0	—	0.000000	—	0.0000	♂♂
ですな	22		63	2.86	0.001349	0	0	—	0.000000	—	0.0000	♂♂
だからな	15		30	2.00	0.000438	0	0	—	0.000000	—	0.0000	♂♂
な(禁止)	9		26	2.89	0.000228	0	0	—	0.000000	—	0.0000	♂♂
からな	10		18	1.80	0.000175	0	0	—	0.000000	—	0.0000	♂♂
のかな	11		14	1.27	0.000150	0	0	—	0.000000	—	0.0000	♂♂
ますな	9		15	1.67	0.000131	0	0	—	0.000000	—	0.0000	♂♂
だな	8		14	1.75	0.000109	0	0	—	0.000000	—	0.0000	♂♂
ですからな	8		14	1.75	0.000109	0	0	—	0.000000	—	0.0000	♂♂
さな	7		12	1.71	0.000082	0	0	—	0.000000	—	0.0000	♂♂
がな	6		12	2.00	0.000070	0	0	—	0.000000	—	0.0000	♂♂
ましたな	7		10	1.43	0.000068	0	0	—	0.000000	—	0.0000	♂♂
ますかな	7		9	1.29	0.000061	0	0	—	0.000000	—	0.0000	♂♂
だろうな	6		7	1.17	0.000041	0	0	—	0.000000	—	0.0000	♂♂
ですかな	5		8	1.60	0.000039	0	0	—	0.000000	—	0.0000	♂♂
な	39		129	3.31	0.004897	3	3	1.00	0.000034	142.4779	0.0070	♂
お+な(命令)	3		5	1.67	0.000015	3	5	1.67	0.000057	0.2549	3.9234	♀
お+なさいな(命令)	1		1	1.00	0.000001	6	9	1.50	0.000206	0.0047	211.8645	♀
尊敬+な(命令)	0		0	—	0.000000	6	7	—	0.000160	—	—	♀♀

【表Ⅲ—g 〈表現B〉を使用する割合—〈つけ〉】

表現A	表現B	① ② ③ ④ 男性				⑤ ⑥ ⑦ ⑧ 女性				⑨ 割合の比較I 女性の何倍 使用しているか	⑩ 割合の比較II 男性の何倍 使用しているか	
		話手人数 B	使用度数 B	1人あたりの 使用度数	この表現を男性が 使用する割合	話手人数 B	使用度数 B	1人あたりの 使用度数	この表現を女性が 使用する割合			
つけ	つけ	7	8	1.14	0.00055	0	0	—	0.00000	—	0.0000	♂♂

【表Ⅲ—h 〈表現B〉を使用する割合—〈さ〉】

表現A	表現B	① ② ③ ④ 男性				⑤ ⑥ ⑦ ⑧ 女性				⑨ 割合の比較I 女性の何倍 使用しているか	⑩ 割合の比較II 男性の何倍 使用しているか	
		話手人数 B	使用度数 B	1人あたりの 使用度数	この表現を男性が 使用する割合	話手人数 B	使用度数 B	1人あたりの 使用度数	この表現を女性が 使用する割合			
さ	たとさ	8	13	1.63	0.00101	0	0	—	0.00000	—	0.0000	♂♂
	名詞+さ	39	207	5.31	0.007858	3	8	2.67	0.000092	85.7352	0.0117	♂
	さ	47	283	6.02	0.012946	8	16	2.00	0.000489	26.4856	0.0378	♂
	のさ	32	126	3.94	0.003924	5	12	2.40	0.000229	17.1279	0.0584	♂
	だからさ	9	12	1.33	0.000105	3	3	1.00	0.000034	3.0586	0.3270	♂
	とさ	3	5	1.67	0.000015	2	2	1.00	0.000015	0.9558	1.0462	♀

【表Ⅲ—i 〈表現B〉を使用する割合—〈い〉】

表現A	表現B	① ② ③ ④ 男性				⑤ ⑥ ⑦ ⑧ 女性				⑨ 割合の比較I 女性の何倍 使用しているか	⑩ 割合の比較II 男性の何倍 使用しているか	
		話手人数 B	使用度数 B	1人あたりの 使用度数	この表現を男性が 使用する割合	話手人数 B	使用度数 B	1人あたりの 使用度数	この表現を女性が 使用する割合			
い	のだい	8	12	1.50	0.00093	0	0	—	0.00000	—	0.0000	♂♂
	のかい	31	167	5.39	0.005039	5	16	3.20	0.000305	16.4939	0.0606	♂
	だい	27	151	5.59	0.003968	6	11	1.83	0.000252	15.7446	0.0635	♂
	なのかい	7	9	1.29	0.000061	1	2	2.00	0.000008	8.0287	0.1246	♂
	かい	40	237	5.93	0.009227	11	35	3.18	0.001470	6.2760	0.1593	♂
	い	8	11	1.38	0.000086	3	4	1.33	0.000046	1.8691	0.5350	♂

【表Ⅲ—j 〈表現B〉を使用する割合—〈まい〉】

表現A	表現B	① ② ③ ④ 男性				⑤ ⑥ ⑦ ⑧ 女性				⑨ 割合の比較I 女性の何倍 使用しているか	⑩ 割合の比較II 男性の何倍 使用しているか	
		話手人数 B	使用度数 B	1人あたりの 使用度数	この表現を男性が 使用する割合	話手人数 B	使用度数 B	1人あたりの 使用度数	この表現を女性が 使用する割合			
まい	まい	25	44	1.76	0.001071	2	2	1.00	0.000015	70.0920	0.0143	♂
	ますまい	3	4	1.33	0.000012	4	4	1.00	0.000061	0.1912	5.2312	♀

【表Ⅲ—k 〈表現B〉を使用する割合—〈か〉】

表現 A	表現 B	① ② ③ ④ 男性				⑤ ⑥ ⑦ ⑧ 女性				⑨ 割合の比較I 女性の何倍 使用しているか	⑩ 割合の比較II 男性の何倍 使用しているか	
		話手人数 B	使用度数 B	1人あたりの 使用度数	この表現を男性が 使用する割合	話手人数 B	使用度数 B	1人あたりの 使用度数	この表現を女性が 使用する割合			
か	のか	26	121	4.65	0.003062	0	0	—	0.000000	—	0.0000	♂♂
	もんか	11	15	1.36	0.000161	0	0	—	0.000000	—	0.0000	♂♂
	じゃないですか	10	12	1.20	0.000117	0	0	—	0.000000	—	0.0000	♂♂
	だろうか	9	10	1.11	0.000088	0	0	—	0.000000	—	0.0000	♂♂
	てくれないか	6	10	1.67	0.000058	0	0	—	0.000000	—	0.0000	♂♂
	てくれませんか	6	7	1.17	0.000041	0	0	—	0.000000	—	0.0000	♂♂
	なのか	5	8	1.60	0.000039	0	0	—	0.000000	—	0.0000	♂♂
	ものか	22	58	2.64	0.001242	1	1	1.00	0.000004	325.2268	0.0031	♂
	か	52	381	7.33	0.019283	6	9	1.50	0.000206	93.5126	0.0107	♂
	お+ですか	18	38	2.11	0.000666	2	2	1.00	0.000015	43.5845	0.0229	♂
	ませんか	20	35	1.75	0.000681	2	3	1.50	0.000023	29.7360	0.0336	♂
	じゃないか	48	408	8.50	0.019061	8	41	5.13	0.001253	15.2182	0.0657	♂
	でしたか	5	9	1.80	0.000044	1	1	1.00	0.000004	11.4696	0.0872	♂
	ましたか	14	31	2.21	0.000422	3	4	1.33	0.000046	9.2182	0.1085	♂
	ですか	49	438	8.94	0.020889	17	65	3.82	0.004220	4.9504	0.2020	♂
	ますか	20	71	3.55	0.001382	8	11	1.38	0.000336	4.1128	0.2431	♂
	ますまいか	3	5	1.67	0.000015	2	2	1.00	0.000015	0.9558	1.0462	♀
	でしょうか	23	50	2.17	0.001119	13	42	3.23	0.002085	0.5368	1.8628	♀
	お+になりましたか	3	4	1.33	0.000012	2	3	1.50	0.000023	0.5098	1.9617	♀
	だか	4	4	1.00	0.000016	3	3	1.00	0.000034	0.4531	2.2069	♀
	ましようか	25	41	1.64	0.000998	20	47	2.35	0.003590	0.2779	3.5981	♀
	ものですか	4	4	1.00	0.000016	3	5	1.67	0.000057	0.2719	3.6782	♀
	尊敬+ですか	6	7	1.17	0.000041	7	9	1.29	0.000241	0.1699	5.8851	♀
	じゃありませんか	28	106	3.79	0.002889	25	223	8.92	0.021289	0.1357	7.3696	♀
	なすったんですか	2	2	1.00	0.000004	3	3	1.00	0.000034	0.1133	8.8277	♀
	ごぜんすか	3	3	1.00	0.000009	4	8	2.00	0.000122	0.0717	13.9499	♀
もんですか	5	6	1.20	0.000029	11	20	1.82	0.000840	0.0348	28.7717	♀	

【表Ⅲ-1 〈表現B〉を使用する割合—〈ね〉】

表現 A	表現 B	① ② ③ ④ 男性				⑤ ⑥ ⑦ ⑧ 女性				⑨ 割合の比較I 女性の何倍 使用しているか	⑩ 割合の比較II 男性の何倍 使用しているか	
		話手人数 B	使用度数 B	1人あたりの 使用度数	この表現を男性が 使用する割合	話手人数 B	使用度数 B	1人あたりの 使用度数	この表現を女性が 使用する割合			
		もんかね	5	5	1.00	0.000024	0	0	—			
かね	32	147	4.59	0.004578	2	5	2.50	0.000038	119.8955	0.0083	♂	
だね	47	385	8.19	0.017612	4	18	4.50	0.000275	64.0563	0.0156	♂	
だってね	10	14	1.40	0.000136	1	1	1.00	0.000004	35.6832	0.0280	♂	
がね	31	90	2.90	0.002716	3	7	2.33	0.000080	33.8626	0.0295	♂	
のかね	17	37	2.18	0.000612	2	3	1.50	0.000023	26.7199	0.0374	♂	
でしたね	7	11	1.57	0.000075	1	1	1.00	0.000004	19.6258	0.0510	♂	
だったね	10	14	1.40	0.000136	1	2	2.00	0.000008	17.8416	0.0560	♂	
だあね	13	20	1.54	0.000253	2	4	2.00	0.000031	8.2836	0.1207	♂	
ますね	26	54	2.08	0.001367	7	8	1.14	0.000214	6.3902	0.1565	♂	
らあね	5	8	1.60	0.000039	1	2	2.00	0.000008	5.0976	0.1962	♂	
だがね	23	54	2.35	0.001209	5	13	2.60	0.000248	4.8702	0.2053	♂	
からね	26	58	2.23	0.001468	6	14	2.33	0.000321	4.5757	0.2185	♂	
だからね	34	83	2.44	0.002747	8	21	2.63	0.000642	4.2814	0.2336	♂	
っけね	4	4	1.00	0.000016	1	1	1.00	0.000004	4.0781	0.2452	♂	
さね	13	17	1.31	0.000215	3	5	1.67	0.000057	3.7552	0.2663	♂	
ましたね	20	41	2.05	0.000798	7	8	1.14	0.000214	3.7322	0.2679	♂	
だったかね	5	5	1.00	0.000024	1	2	2.00	0.000008	3.1860	0.3139	♂	
ですからね	17	33	1.94	0.000546	5	9	1.80	0.000172	3.1775	0.3147	♂	
だろうね	12	18	1.50	0.000210	3	6	2.00	0.000069	3.0586	0.3270	♂	
ますがね	6	8	1.33	0.000047	2	2	1.00	0.000015	3.0586	0.3270	♂	
ですがね	20	37	1.85	0.000720	7	10	1.43	0.000267	2.6944	0.3711	♂	
でね	23	44	1.91	0.000985	8	13	1.63	0.000397	2.4802	0.4032	♂	
ですね	45	197	4.38	0.008628	20	46	2.30	0.003513	2.4560	0.4072	♂	
ね	55	387	7.04	0.020717	26	86	3.31	0.008539	2.4263	0.4122	♂	
ですかね	9	19	2.11	0.000166	4	5	1.25	0.000076	2.1792	0.4589	♂	
ますからね	10	13	1.30	0.000127	4	4	1.00	0.000061	2.0709	0.4829	♂	
ませんからね	5	6	1.20	0.000029	2	2	1.00	0.000015	1.9116	0.5231	♂	
もかね	7	11	1.57	0.000075	3	4	1.33	0.000046	1.6355	0.6114	♂	
ませんね	18	28	1.56	0.000491	8	12	1.50	0.000367	1.3381	0.7473	♂	
でしたね	4	5	1.25	0.000019	2	2	1.00	0.000015	1.2744	0.7847	♂	
やね	9	15	1.67	0.000131	4	7	1.75	0.000107	1.2289	0.8137	♂	
ましてね	6	15	2.50	0.000088	4	6	1.50	0.000092	0.9558	1.0462	♀	
でしょうね	14	21	1.50	0.000286	11	16	1.45	0.000672	0.4258	2.3487	♀	
でしょうかね	3	3	1.00	0.000009	3	4	1.33	0.000046	0.1912	5.2312	♀	
にね	5	6	1.20	0.000029	7	9	1.29	0.000241	0.1214	8.2392	♀	
でしたかね	2	3	1.50	0.000006	4	4	1.00	0.000061	0.0956	10.4624	♀	
でさあね	1	1	1.00	0.000001	5	5	1.00	0.000095	0.0102	98.0854	♀	
名詞+ね	4	5	1.25	0.000019	22	109	4.95	0.009157	0.0021	470.4176	♀	
たわね	0	0	—	0.000000	6	7	1.17	0.000160	0.0000	—	♀♀	
なのね	0	0	—	0.000000	7	9	1.29	0.000241	0.0000	—	♀♀	
ようね	0	0	—	0.000000	11	16	1.45	0.000672	0.0000	—	♀♀	
尊敬+のね	0	0	—	0.000000	11	16	1.45	0.000672	0.0000	—	♀♀	
わね	0	0	—	0.000000	16	51	3.19	0.003116	0.0000	—	♀♀	
のね	0	0	—	0.000000	24	82	3.42	0.007515	0.0000	—	♀♀	